プリンセス 小公女セーラ

第29話

『ベッキーの里帰り』

AR台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第二十九話『ベッキーの里帰り』

登場人物

セーラ……………島本須美
ベッキー…………鈴木三枝
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
モーリー…………向殿あさみ
ジェームス………郷里大輔
ピーター…………坂本千夏
主人……………

男の子……………

女の子……………

駅員……………

テディ……………

マアサ……………

母……………

赤ん坊……………

カメラ	画面		音声
Ⓣ	Ⓣ『ベッキーの里帰り』		
1	早朝の二階の生徒たちの部屋 誰もいない、ガラーンとしたかんじ		
2	生徒たちの部屋のドア、開けてある　廊下を、シーザーFr・in して奥の部屋をのぞき　手前の部屋をのぞく		
3	シーザー手前に歩いてくる		
4	ガートルード達部屋に入って来るシーザー眺め回す		
5	ガランとした部屋を　C―PAN する		
6	誰もいない部屋で寂しそうにシーザー鳴く		シーザー「ニャ――オ」

7	台所　紅茶とトーストの朝食をとっているジェームスとモーリー ジェームス、カップを口から放し カップを置くとパンに手をやる		ジェームス「やれやれ、生徒たちがいないと気楽で助かるなあ……」 モーリー「ほんとだよ、当分骨休めが出来るってもんさね」
8	パンをチギッて口へ 顔上げてドアの方を見るジェームス		S・E　（ドアが開く音・ガチャ）
9	セーラとベッキーが入ってくる		セーラ　「おはようございますジェームスさん」
10	セーラ顔をモーリーに ベッキーつづらのカバンと夏の帽子を手にしている		セーラ(off)「モーリーさん」 ベッキー「お早ようございます」
11	モーリー、ジロリといやらしい目つきでベッキーを見つめる 立ち上り A・C		モーリー「おや、ベッキー……」
12	ベッキーの前に近づくモーリー		モーリー「もう出て行く気かい？」

			ベッキー「はい……夕方迄には」
13	ベッキー、カバンをチョッと持ち上げるようにして　伏目勝ちに最后に顔上げる		ベッキー「家に着きたいと思いまして……」
14	モーリー、腰に手を当て、ベッキーに近づき皮肉な表情を浮かべて		モーリー「そおかい……フン、生徒さんたちのシーツ位、洗わせてからと思ったのに」
15	気まづそうに目を落とすベッキー ―前に出るセーラ ベッキー顔をセーラに向けて、すまなさそうに叩頭するベッキー ニッコリするセーラ		セーラ「洗濯は、私がしますから……」 モーリー(off)「当り前だよ」 ベッキー「す、すみませんお嬢さま」 セーラ「いいのよ、ベッキー」
16	モーリー、フンというかんじで左手に		モーリー「フン！」
17	モーリー、テーブルに坐って紅茶のカップを口に運ぶ		
18	セーラ一歩前に出てオソルオソ		

	ル言う（言いにくそうに……）		セーラ「あの、ベッキーになにか食べてから 行くようにお願い出来ないでしょうか?」
19	ジェームスあきれた表情で腹立 たしげに 相づちを打つモーリー		ジェームス「冗談云うな！ 里帰りにそこまで 面倒みられるか！」 モーリー「そうだよ、食べたきゃ自分のお金で どこかで食べるんだね」
20	シュンとなるセーラ ベッキー、セーラの方を見て ベッキー明るく 振り返る二人		セーラ「……」 ベッキー「大丈夫です、お嬢さま…… ……私、田舎へ帰れるので胸が一杯で すから」 セーラ「ベッキー……」 アメリア(off)「あら……ベッキー」
21	扉の方から中に入ってくるアメ リア ニッコリ返事するベッキー アメリアとベッキー出ていく		アメリア「ここにいたのね…… 院長先生がお呼びよ、来て頂載」 ベッキー「はい、アメリア先生」
22	ジェームスあきれた感じで ジェームス立ち上る		ジェームス「やれやれ、 院長先生も院長先生だぜ」

23	ジェームス腰に手を当て、そらすようにしてのびをする 下手に動く		ジェームス「メイドを里帰りさせりゃ、その分食費が浮くだろうがこっちは仕事が余計に増えるだけだ」
24	モーリー、セーラに向いて と下手に歩く		モーリー「全くだよ、さァさァ、ベッキーがいない間、院長先生の食事の世話はお前の役だからね」 セーラ「はい、モーリーさん」
25	セーラ戸棚の前に来て皿をとる一枚		
26	もう一枚とろうと手をのばすモーリーFr・in セーラ、一瞬手をとめる、ゆっくりととった皿を重ねる 台詞尻モーリー上手に切れる		モーリー「お前には帰る所なんかないんだ。ここ以外にはいくところはないんだから、しっかり働いてもらわなきゃ困るよ」 セーラ「はい」
27	院長室　ベッキーこちこちになっている		ミンチン(off)「いいですね……」

28	やさしい表情のミンチン 眼鏡をズリ上げて		ミンチン「新学期が始まる前には、また沢山の準備をしておかねばなりません……休暇が終ったら真直ぐここに戻ってくるように……」
29	ベッキー硬直したかんじで返事をする　ミンチン、満足げにうなづき、アメリアに…… アメリア下手にoutする		ベッキー「はい。院長先生……」 ミンチン「アメリア……今日までの給料を支払っておやり」 アメリア「はい、お姉様……」
30	テーブルの上の金庫にアメリアの手が入ってフタが開けられる		
31	アメリア金庫に右手を入れ手を出して確認するように見て上手へ		
32	アメリア、ベッキーの手をとって その手の上にお金をのせる		アメリア「はい、落したりしないようにね」

33	ベッキーの手のひらの貨弊のＵＰ 1シリング＋8ペンス（20ペンス程度）		
34	ベッキーのＵＰ　顔がほころぶ		ベッキー「ワ〜〜」
35	ベッキーお金を持つ手をゆっくりと握りしめる　その手をもう片方の手で握りしめる		
36	ニッコリ見るアメリア		
37	C－29同ポ　ベッキー礼をのべる ハッと気付いて ミンチンに向いて最敬礼する		ベッキー「有難度うございますアメリア先生！… ハッ！ 有難度うございます院長先生！」
38	ミンチンにっこりとおうように頷く ミンチン　顔上げて		ミンチン「よろしい……」 S・E(off)（トントン） ミンチン「お入り……」
39	セーラ紅茶ポット、カップ、トーストをのせた盆を持って入っ		

	てくる　ドアしめて 向き直る 台詞後半から歩き出す		セーラ　「あの、お食事はこちらでと聞きま したので……」
40	セーラ、アメリアの前に来て ミンチン、椅子にかける アメリア、受けとる		アメリア「あ、有難う」
41	アメリア、セーラにねぎらいの 声をかけて アメリア上手に セーラ追うように一歩でて		アメリア「今日から一人で大変ね」 セーラ　「いいえ、大丈夫です…… あの」
42	セーラ真剣な表情で		セーラ　「院長先生にお願いがあるん、 です」
43	アメリア、テーブルに盆を置い たところから身体を起す ミンチンきげん良く		ミンチン「なんです、いきなり」
44	セーラ、ベッキーを見て 顔を戻し ベッキー一瞬嬉しそうに 慌てて真面目な顔でミンチンを		セーラ　「あの、駅までベッキーを送ってあげ てもいいでしょうか」

45	ミンチンとアメリア顔見合わせる ミンチン　恩着せがましくはっきりと言う		アメリア「お姉様、私丁度手紙を出しに行って欲しいと思ってましたの、ついでによろしいですわね」 ミンチン「ま、よろしいでしょう早く戻って来るのですよ」
46	セーラ 云い終るとベッキーと顔を合わせてニッコリ		セーラ「はい、院長先生！」 二　人「フフッ」
47	アメリアもニッコリ		
48	地下の入口のドアが開いてベッキーとセーラが出てくる 階段上る		
49	脇の階段から上って　通りに出る二人　セーラ手紙を手にしている		
50	緑の葉越しに教会の塔 PAN・DOWN↓ ベッキーとセーラやってくる		S・E　（鐘の音・カラ〜〜〜ン、カラ〜〜〜ン）

51	歩く二人　おちつかないベッキー時々セーラを見る ←FOLLOW	
52	FOLLOW↖　なんとなく浮かぬベッキー、ちらりちらりとセーラを見る ベッキー、おずおずと セーラ、ベッキーの方を見て	ベッキー「あのォ、お嬢さま……」 セーラ「え……」
53	↖FOLLOW　ベッキー複雑な胸の内を話そうとする	ベッキー「私、久し振りに故郷へ帰って、お母さんや弟や妹たちと逢えるのは嬉しいんですけど……ほんとはちょっぴり胸ん中が苦しいんです」
54	FOLLOW　意味が判らないセーラ	セーラ「まァ、どうして？」
55	FOLLOW←　ベッキー悲しそうに	ベッキー「だって私は、親兄弟の所へ帰れますけど……。お嬢さまは、お父さまさえおなくしになって……」
56	↗FOLLOWセーラ、ベッキー	セーラ「ベッキー……」

	をやさしく見つめて		
57	ベッキー、セーラの前に出て立ち止り　伏目勝ちにカバンを両手で持って		ベッキー「お許し下さいまし、こんなこと申して……でもお帰りになる所もないお嬢様がお気の毒すぎて……」
58	セーラ笑みを浮べて セーラ、手前に来てクルリ ベッキーためらって セーラ、ベッキーに手をやって ベッキー「はっ！」とするようになって		セーラ「ベッキー。私のことは心配しないで…あなたの分も働いておくわ」 ベッキー「でも……」 セーラ「それより、弟さんや妹さんたちにお土産を買わなきゃいけないんでしょ」 ベッキー「あ、忘れてましたお嬢様」
59	セーラ　チョッとダメネ！と笑顔で笑うかんじ		セーラ「まァ、ベッキーッたら……」
60	ベッキー首すくめて笑う		ベッキー「フフフ……」
61	セーラ右手を出してベッキーのカバンをつかむ　セーラ、歩き出す（ベッキーにごたごた云わせない）　あわてて追いつくべ		セーラ「さ！……」 ベッキー「お嬢様……」 セーラ「急ぐのよ！」 ベッキー「……はい！」

	ッキー　ニコニコした二人		
62	二人、元気よく荷物を二人で持って歩いていく		
63	キャンディー（赤）のＵＰ（窓ガラス越しのビンの中のもの） 薄く、外の風景映っている		
64	これも窓ガラス越しです		
65	窓ガラス越しのお菓子　そこに ベッキーの姿がFr・Ｉして映る		
66	ベッキー、のぞきこんでいる 隣にセーラ（ベッキーは足元に カバン置いてある） カット尻またのぞき込む		ベッキー「お嬢様……私、このお店の前を通るたびに、いつか弟や妹たちに買って帰ってやりたいってそう思ってたんです」
67	ベッキー身を乗り出して楽しそうに セーラの方を見て		セーラ「……弟さんたちきっと喜ぶわ…………でも、どのキャンディにするの？」 ベッキー「それはもう前から決めてあるんです」

	ニッコリするセーラ	セーラ「まア……」
68	キャンディーの山にスコップがザクッと入る　スコップ上げられ二つ位コロコロッと落ちる	
69	主人スコップのキャンディーをビンに入れる　奥に見えるドアが開いて主人の身体の向うでベッキー、セーラが入ってくる―セーラ扉閉めて	S・E　（チリンチリン。チリンチリン）
70	ベッキー、キョロキョロ見まわして左手のキャンディーのところへ　セーラ、一、二歩で止る奥を見るベッキー目をくりくりして行く	ベッキー「ワ――ッ、決めておいたのに目移りしてしまうわ」
71	奥の棚に近寄るベッキー	ベッキー「ワ――ッ」
72	セーラ笑顔でベッキーを見送りフッと上手の方に目線をうつす	ベッキー(off)「キレイ！〜〜〜」

73	PAN T・U→ キャンディーがビンに差してある→		
74	寂しそうな顔のセーラ わずかにT・U セーラ、フッと我に返って顔を回す		主人(off)「何上げましょう」 ベッキー(off)「あのォ……あそこに並んでいる赤いキャンディを頂きたいんですけど……」 セーラ「ハッ！」
75	主人、ベッキー窓側の棚を見ている 主人下手方に行く		主　人「ああ、アップルキャンディだね」
76	中央のテーブルの向うを窓側に行く主人		
77	窓際の赤いキャンディーのビン 主人の手が取り上げる		
78	主人、ビンをチョッと上げてみせる		主　人「これかね？」

79	ベッキー興奮している　うれしく大きく頷いて		ベッキー「は、はい……」
80	にっこりするベッキー セーラ寂しげに主人からベッキーに目線をうつす　主人奥へ行く		ベッキー「そう、それです！」
81	ベッキーをうらやましそうに見てうなだれていくセーラ セーラの方を見るベッキー それに気づいて慌ててニッコリ 笑みを返すセーラ		
82	主人一歩来てテーブルにビンを置いてフタをとる ベッキー慌てて 主人テーブルからスコップをとって		主　人「目方売りで一ポンドが……」 ベッキー「いえ、そんなに沢山いらないんです」 主　人「沢山いらないって？……」
83	スコップをビンの中に入れてキャンディーをすくい出す		主　人「じゃ半ポンド位計るかね」

84	ベッキー　ちょっといいにくそうに		ベッキー「いえ……ほんの、一ペニー分でいいんですけど……」
85	主人、キョトンとして――一人納得して叩頭し笑って　いやみにならないように		主　人「あん？　……なんだ、御主人の使いじゃなかったのかね」
86	ベッキー恐縮して		ベッキー「す、すみません」
87	主人、笑って左手をテーブルにのばし三角の紙袋を口元に　フッと吹くと袋をふくらませ		主人(off)「ははは……自分が食べるならそう云ってくれりゃよかったんだよ」
88	スコップにさっきとったキャンディーをイクラかビンに戻す（残り五、六個）		
89	主人キャンディーを紙袋に入れる		主　人「ほれ。一ペニー分おまけだよ」
90	ベッキー財布から一ペニー貨を大事そうにとり出す。主人の手		

	がそのコインをとって　アメの 袋を渡す　ニッコリと袋を胸元 に見つめるベッキー		ベッキー「ワア〜〜〜」
91	菓子屋の表 セーラとベッキー出てくる		S・E　（チリリリ〜〜〜ン）
92	ベッキー笑いを押え切れない セーラ、ニッコリして声をかける		ベッキー「ウフフフフ。 私、自分の買物したなんて、ロンドン へ来て始めてです」 セーラ　「よかったわね」
93	ベッキーをうながすセーラ 返事するベッキー 歩き出す二人		セーラ　「さ、駅に急がなくては……」 ベッキー「はい！」
94	カバンを一緒に持って歩く二人 馬車の音聞えて　Sliding 馬車が通り抜ける		
95	セーラ立ち止る ↗FOLLOW		セーラ　「あ、ピーター！」

96	↙FOLLOW　ピーター振りかえって、見て ピーター　手綱を引いて		ピーター「あッ！ どおォ……」
97	馬止る セーラとベッキー駆けてくる ピーターたずねて セーラ答えて		セーラ「お早うピーター」 ピーター「どうしたんです。お嬢さんに、ベッキー」 セーラ「ベッキーが里帰りで駅まで行く所なの」 ピーター「へえー……」
98	ピーター承知して二人を駅まで送るよう告げる		ピーター「よしきた、丁度駅まで野菜の荷を受けとりに行く所なんです、荷馬車でよかったら乗って下さい」
99	ベッキー　喜んで セーラ、ベッキーからカバンをとる		ベッキー「ワ――よかった！」 セーラ「有難う」
100	カバンをピーターに渡すセーラ		セーラ「ピーターの馬車に乗るなんて久し振りね」

101	街並み　横の通りをピーターの馬車がFr・inして横切る		
102	馬車の三人、浮き浮きとして乗っている　FOLLOW		
103	KINGS　CROSS駅正面　T・U		
104	KINGS　CROSS　駅前　PAN・DOWN　広場に群衆		
105	C―PAN　駅前　集まった人人　PAN→		
106	色々な人物　よそ行きの服装に荷物を傍に置いて……		
107	汽車を待つ人々		
108	Fr・in　構内中からのAngleピーターの馬車Fr・Iして、止る　この部分で		

109	駅構内に止っている機関車からケムリが上っている、奥の風景、少しとばし気味のハイキーで		
110	C－PAN→　ホームの群衆 別れ惜しむ人たちさまざま		
111	赤帽が帽子の箱などかかえカバンを運んで来る　手前にFr・out その後からベッキーのカバンをかかえたピーターとベッキー、セーラが足早やに来る		
112	ピーター、入って来て止ると振りかえる		ピーター「さァ、この辺ならいいだろう」
113	立ち止るベッキーとセーラ 手前を通過する人　振りかえってかしこまるベッキー		ベッキー「お嬢様……それじゃ心残りでございますけど……」
114	ちょっと泣きそうな表情のベッキー		

115	セーラ、ニッコリして ベッキーをうながして		セーラ「いいのよ、ベッキー。 さ、早く乗らないと席がなくなるわよ」
116	ベッキー頷いて ピーター奥に向いて		ベッキー「ハイ……」 ピーター「よしきた！」
117	駆けてくるピーター車内をのぞいてみるとサッと下手へ行く		
118	窓の方を見ながら来るピーターのぞきこむとまた駆け出す		
119	車内から（カメラ）ピーター、 ドアを開けて のぞくとニコッとして のりこむとカバンを置く		ピーター「はあ〜〜」
120	パッと顔を出して手を振るピーター		ピーター「ベッキー！」
121	二歩位でくるベッキー、セーラ ベッキー礼を言う		ピーター「ここでどうだいー」 ベッキー「有難う……」

	のりこむベッキー		
122	ベッキー窓を開ける そこへセーラ、顔を出す		セーラ　「じゃベッキー……元気でね」
123	ベッキー　ヒトミゆれる（泣声である）		ベッキー「はい……お嬢さま、お嬢さまこそ、 無理をなさらないように……」
124	セーラ　頷いて		セーラ　「有難うベッキー」
125	クシャッと顔ゆがむベッキー		S・E　（汽笛・ポ～～～～ポ―――） ベッキー「ううう……」
126	セーラもちょっと悲しくなるが 顔を回す		
127	駅員がドア閉める 続いて次のドアを閉める		
128	セーラ、ピーターに向いて ピーター陽気にホームにポンと 降りてドアを閉める		セーラ　「ピーター、降りないと一緒に乗せら れてしまうわ」 ピーター「おっと」

129	ーキワ煙が強く盛り上るように出る		
130	ユックリと列車動き出す		ベッキー「では、お嬢さま」
131	セーラ、ピーター列車を追うように歩きつつ		セーラ「気をつけてねベッキー」 ピーター「元気でな」
132	列車動いていく　セーラたち止る　ベッキー帽子をとって		ベッキー「お嬢さま！」
133	ベッキー身をのり出す 涙を流して――		ベッキー「お嬢さまー！」
134	一、二歩前に手をふるセーラ		
135	ベッキー手を帽子を持った手を振る		ベッキー「お嬢さまー！」
136	手をふるセーラ		
137	進む汽車		

138	139	140	141	142	143	144	145
セーラのＵＰ　汽車を見つめる	ハイキーのＢＧに汽車行く カゲロウのようにボヤケル車体	ワズカにＴ・Ｕ 見つめるセーラの顔	蛇行するように、溶けこむように見えなくなる列車	ポツンと列車のいなくなったホームにセーラとピーター	ゆっくり、セーラ、ピーター近づく	セーラ、ポツリとつぶやくようにピーター顔上げるハッとするかんじ パッと笑顔で前へ出る	ピーターおどけたように言う
			Ｓ・Ｅ　（汽笛がもう一度・ポ——）←			セーラ　「楽しいでしょうね田舎って……」 ピーター「ハッ！ ええ……残念ながら」	ピーター「こっちは生れたこのロンドンより他

			に行くところはありませんけどね」
146	セーラ　汽車の方を見つめながら		セーラ「私もよ……私にも、行くところはないのよ」
147	ピーター、ギクッとしたようにセーラを見る　セーラ、ヒトミがゆれてこらえているかんじ　T・Uして		ピーター「お、お嬢さま」
148	汽車の消えて行った風景がやけに生々しく見えている		
149	洗濯をしているセーラ　水槽に洗ったものを入れカゴから次のものを桶に入れて洗う　T・U		S・E（ゴシゴシゴシゴシ）
150	洗濯物の山を前にしてギュッキュッと洗っているセーラ　きびきびと真剣な顔で働くセーラ　泡が飛び散る		
151	シーツを洗う手、ゴシゴシ泡が		

	散る		
152	洗うセーラ　汗が額に浮び―― 頬を流れる汗		
153	洗っていたが、洗い終りシーツ を持ち上げ丸めてしぼり水槽の 方にそれを落とす カゴからシーツをとり　桶に入 れ押えつける　顔をおこす		
A・C			
154	流れる汗を手で拭くセーラ また洗い始める モーリー現わる 洗いながら、顔だけモーリーの 方を見て返事をするセーラ モーリー扉をしめて出ていく 再び洗い始める　セーラの頬を 汗が流れる		S・E（ドアの開く音・ガチャ） モーリー「さあ……シーツの洗濯が終ったら、 生徒さんたちの部屋の大掃除にかかっ てもらうからね！」 セーラ「はい……！　モーリーさん！」 S・E（ガチャ）

155	裏の物干し場でシーツが干されている　セーラがシーツを干している		
156	セーラ干している　片方を縄にひっさげて　左手前に来てもう一方の端をとめる　シーツをピッピッと伸ばしてから　脇のカゴに行く　新しいシーツを出して立ち上る		S・E　（汽笛〜〜〜〜）
157	セーラ振り返る　目線をガードの方に据えたまま、シーツをひろげながら来る		
158	建物の隙間から貨物列車が通る		
159	風に髪の毛が揺れる		
160	貨物列車が通り抜ける		
161	セーラ、シーツの端を縄の間にさしこみながら呟く		セーラ　「……ベッキーは……もうどこまで行ったかしら……」

162	汽車が進む　ベッキーをのせた列車の機関車　FOLLOW↖		S・E（ボ――ッ！）←～～～～～～～～
163	山羊が草をはむ丘陵、そのむこうを汽車が走る（のんびりした拡がりのある風景）		
164	ベッキー窓外を見ている　風でゆれる髪の毛　↖FOLLOW		
165	→→FOLLOW 外を見ているベッキー		
166	外を見ているベッキー おやっとなる		ベッキー「あらッ！」
167	牧羊犬が吠えながら駆ける →FOLLOW　ころぶ犬		
168	ベッキー、クスッと笑う		ベッキー「フフッ！」
169	どこまでも明るい風景を汽車が走る SLIDE←		

170	車内　ベッキーの前には労働者風の男　チラッと前を見るベッキー		
171	↘FOLLOW　コクッコクッとやりながら眠っている男から→C－PANすると男がいるその隣りの男　紙包を開いたところ　大きなサンドイッチをパクリと食べる		
172	少し口を開けて見るベッキー↗FOLLOW　ゴクンと唾をのんで　盗み視るかんじでまた見る、ベッキー		ベッキー「あ〜〜〜んゴックン」
173	ムシャムシャと豪快にサンドイッチを食べる男　←FOLLOW		
174	ベッキー羨しそうに見る（思わず、身をのり出して口をあける――そして羨しそうに見つめる）→FOLLOW　目をはずして		ベッキー「はあ――」

	175	176	177	179
ホッとタメ息 そうだと思いつき　脇のかばんをとる　カバンを膝にのせて開けると　キャンディーの紙袋を出す	紙袋から赤いキャンディーを一つつまみ出す	→FOLLOW　ややためらうかんじで見つめるが小さく唾をのみこんで　キャンディーをそっと上げて見て――口元へ持ってきて止める 声にハッとして左手を見る	女の子が男の子の手をニギッてトントンとハネている 奥の席で子供の兄妹ハシャイでいる　T・U　FOLLOW←	ベッキー見ている →FOLLOW　FOLLOW
フ――ッ」		女の子(off)「お兄ちゃん！」 ベッキー「ハッ！」	男の子、女の子「（笑い声）キャッキャッ…… （adlib）」	

	手元を見る		
180	ベッキー、キャンディーをしば らく見つめてから　キャンディ ーを紙包に戻して		
181	ベッキー紙包みをカバンにしま って　カバンを脇に戻す		
182	男　←FOLLOW　モグモグ やりながらベッキーを評し気に 見る		
183	ベッキー視線を感じて見上げる		
184	男、ベッキーを見つめるが また顔戻し大きな口を開けて パクパクと食べ出す ↙FOLLOW		
185	目をそらしホッと溜息をついて 生つばをのみこむベッキー 窓外に目をやるベッキー		ベッキー「フ――ッ！」

186	窓外の風景　PAN← 奥の崖にホワイト・ホースが見 える		
187	ベッキー、ホワイト・ホースを 見つけて「あッ！」 ←FOLLOW		ベッキー「あッ！」
188	ゆっくりと移動するホワイト・ ホース　白馬がたてがみを、な びかせて走る姿がWって		
189	ベッキー、クスッと笑う ケムリがさっと通過していく		ベッキー「フフ……」
190	←FOLLOW　手前にケムリ が吐き出されていく		
191	田園風景をのんびりと走る列車 ↖SLIDE		
192	二階の階段　寝ているシーザー セーラ上ってくる		

193	シーザー顔上げる		
194	セーラ部屋に入っていく 後からシーザーFr・Iして追う		
195	セーラ、バケツを置く シーザー入ってくる セーラ跡をのぞく モップを左手にもちかえる シーザー足元にすり寄ってニャーオ セーラしゃがみこむとシーザーの背に手をやる		シーザー「ニャ——オ。 ニャ——オ」 セーラ「シーザー……夏休みでロッティたちはお家に帰ってしまったのよ……それからベッキーまでも……」
196	セーラ言い聞かせるように言い微笑む		セーラ「だから、淋しいでしょうけど、我慢しましょうね」
197	シーザー、セーラの手に顔をこすりつける		シーザー「ニャ〜〜〜オ」
198	セーラ立ち上って手前に近づく		

199	セーラ窓を開ける　一瞬風がカーテンを舞い上がらせる		
200	窓外見るセーラ、気もちよさそうである　揺れ左髪を手で直す		
201	窓外の風景　屋根の見える街		
202	キラキラの川の流れ 河原からPAN・UP 高原の中腹を列車が走る		
203	コックリコックリと居眠りをしているベッキー		
204	FOLLOW→　他の人たちはもういない……ガランとした中で眠っているベッキー		
205	青い空　雲が流れる		
206	雲のカゲが動いていくのが見える中を列車が行く		

207	眠っているベッキー		
208	草地に影をオトシテ列車走る ↘逆（もう少しひき） ↙FOLLOW		
209	ASHFIELD駅に列車が来る、		
210	ASHFIELDの駅の看板を なめて　列車が入ってくる		
211	列車が除行して入ってくる		
212	眠っているベッキー →FOLLOW　コックリコッ クリの動きと、ガクンととまる 反動があって　大きく前にツン ノメル		ベッキー「わぁ〜〜〜」
213	前の座席に手をついて止る と目をこすりながら顔を上げる つけPAN、と、あらッ		ベッキー「あらッ！」

214	誰もいない客車		
215	慌てて、立ち上り窓外を見る		ベッキー「い、いけない！」
216	ドアあけてホームにとび出して来るベッキー　カバンを置いて ハッと振り返り ドアをパタンと閉める　そこに駅員近づいて		ベッキー「降りまーす！フ——ッ！」 S・E　（汽笛・ポ——ッ）〜
217	礼を言う駅員 ペコンとおじぎするベッキー カバンのところに小走りで来る		駅　員「有難とうお嬢ちゃん」 ベッキー「い、いえ……」
218	汽笛を鳴らして出ていく列車——out していく 駅員が汽車を見送っている 降りた人が柵の向うに歩いていくのが見える		S・E　（汽笛・ポ〜〜）←〜〜〜
219	風が草をなでていく　ベッキー		

	が山の坂道を登ってくる		
220	ベッキー立ち止って　フーッと 吐息（疲れてはいますが生々と 元気な動作で）　帽子であおぐ 上手を見る		ベッキー「フ——ッ！」 S・E（Longで汽笛・ポ——）
221	汽車が谷間を走るのが見える 風が草を揺らす		
222	ベッキー、ポンと帽子をかぶり 歩きだすベッキー		
224	ベッキー丘を登っていく		
225	夕方　鳥の群れが木の葉の中に 飛びこんでいく		
226	ベッキー上って来て見下ろして にこり		ベッキー「ハア」
227	下に見える家 駆け降りるベッキー		

228	ベッキー、タ、タッと駆けて帽子を脱いで振りながら叫ぶ ←FOLLOW.		ベッキー「テディ〜〜〜！……マアサ！」
229	マキ割り場でマキを割るテディ マキをそろえているマアサ 振りかえる二人		二人「ん?!」
230	丘の上でベッキー帽子を振っている と手前に駆け出す		テディ「ね、ねえちゃんだ！」
231	柵を廻って駆けるテディとマアサ		マアサ「ねえちゃーん」
232	駆け降りてくるベッキー FOLLOW↙		
233	テディとマアサ駆け上る FOLLOW→		
234	駆けるベッキー FOLLOW↙		

235	テディ、マアサ　喜んで駆ける FOLLOW		
236	下から二人駆け上がって行く 遅れてベッキー駆けてくる		
237A	二人、アーッと止る		二人「ア〜〜ッ！」
237B	ベッキー止まろうとするが止まらない　FOLLOW↓		ベッキー「あー、どいてどいて〜〜！
238	慌てて、どくテディたちの前を 通り抜けて ベッキー尻持ちをつく		あ——ッ」
240	はずみながらすべるベッキー フーッと息をはくベッキー パタンとひっくりかえり FOLLOW　PAN 二人の足がinする　ポンと帽子 を顔にのせる		ベッキー「フ——ッ。 恥かしい！」
241	テディとマアサ　のぞき込む		テディ「お姉ちゃん！」

242	――間―― パッと、帽子をどかして	マアサ「大丈夫？」 ベッキー「バァートッ！」
243	二人 ポカーン	二人「ハア〜〜」
244	ベッキー、パッと起き上って、手を拡げる ベッキーに飛びつくマアサとテディ、抱き上げたり、頬を寄せたりする ベッキー二人をしっかり抱きしめる	マアサ「お姉ちゃん！」 テディ「ねえちゃん！」 ベッキー「マアサ！……テディ……みんな元気だった？」
245	テディ ちょっと身をひいて ベッキーうれしそうに マアサの鼻をチョンとつつく ベッキー、カバンの方に向いて	テディ「うん、元気さ……だけど、ねえちゃんロンドン行って、別ピンになったねえ」 ベッキー「ほんと？」 マアサ「ほんと！」 ベッキー「うふ……よーし」

246	カバンをひきよせる 二人のぞきこみ顔を見合せたり する　あけるとキャンディーの 紙包みを出す	ベッキー「あんたたちにお土産買って来たから ね」
247	二人、固唾をのむ	
248	ベッキーの手が袋をあけて差し 出す	ベッキー「ホラッ！」 テディ(off)「うわァ――」
249	テディ、うれしそうに マアサも喜んでいる	テディ　「キャンディーだ！」 マアサ　「おいしそう」 ベッキー「さ、食べてごらん」
250	マアサそっと手をのばして とり出すと――二人顔をよせて 眺める　にっこりし合う二人 のぞき見る兄妹　にっこりして 口の中に入れて、口の中で左右 にころがしたりする	二　人「はあ」
251	ベッキーのぞき込むように	ベッキー「どう？……」

252	テディも手をのばして、とると口へ放り込む		マアサ「あまくて、おいしい！」 テディ「ひゃァ……あうんおいら、こんなおいしいキャンディー食べたのはじめてだ……」
253	ベッキーうれしそうに ベッキー、カバンをひきよせて立ち上ろうとしたとたんテディが、カバンをとって走る マアサは帽子をとって走る		ベッキー「よかった」 テディ「ねえちゃん荷物運ぶよ」 マアサ「私……帽子！」 「（二人の喜ぶ声）」
254	ベッキー笑って見送り　立ち上る		二人の声「（ＡＤＬＩＢ）」 ベッキー「フフッ！」←〜
255	母出て来て戸口に立つ　テディ、マアサ駆け込む 遅れてベッキー駆けて来て止る		二　人「お母ちゃん!!」
256	ベッキー、母を凝っと見る		ベッキー「ただいま……！」
257	ゆっくり頷く母　だが心配げに		母「ベッキー……お前まさか……辞めさせられたんじゃ……」

番号	ト書き		台詞
258	びっくりするベッキー		ベッキー「え〜〜!!」
259	母、やさしく肩をだくようにして中へ入れる 何か言おうとするのを制止して中へ押しやる母		母「ああ……いいんだよ……心配いらないよ」
260	テディとマアサが待つ所にベッキー入ってくる ベッキー、二人にひっぱられて、続いて母も扉を閉めて入ってくる		テディ「ねえちゃん、こっち!」
261	椅子に坐らされるベッキー 兄妹顔を見合せる		テディ「さァ。ここ!」 ベッキー「ありがとう、母さん……心配しないでよ辞めさせられたんじゃないのよ」
262	母、ベッキーを見つめて笑う—— 一同も笑う		母「……なんだ……ワハハ〜〜。それで、夏休み中ずっとこっちにいられるのかい?」 ベッキー「駄目なの、それが……生徒さんたちの新学期が始まる前に帰るようにって」

263	母、一寸淋しそう		ベッキー(off)「云われているの」 母「まァ……」 ベッキー(off)「それに」
264	ベッキーちょっとうつ向いて		ベッキー「早く帰らなきゃセーラお嬢様にご迷惑がかかるもの……」
265	母、乳呑児に指を握らせてあやしている ちょっと間——		母「そお……」
266	ベッキー、ポケットをがさごそ財布を出して		ベッキー「それからこれ」
267	テーブルの上にお金を出す		ベッキー(off)「汽車賃で」
268	顔を上げるテディ、マアサ		ベッキー(off)「随分なくなっちゃったけど使って」
269	母ニッコリして言う ニッコリ ベッキー手前に顔まわして		母「悪いねえ……毎月仕送りして貰ってる上にこんなに沢山……助かるよ」 ベッキー「おばあちゃんは？」 母「神経痛の具合が」

No.	画面		台詞
270	一寸、暗くなるベッキー パッと明るくなって 立ち上りの A・C		母「（コボシ）良くなくてねぇ」 ベッキー「そお…… ね、今夜は」
271	パッと上手に駆ける		ベッキー「私が夕食作るね」 母「まァ……お前だって疲れているのに」
272	ジャガイモとり出してポンポン と軽くもてあそぶ ジャガイモ落しそうになってお どけて		ベッキー「大丈夫よ…… 台所の仕事ならもう馴れてるもの。 オット！」
273	テディとマアサ、ケラケラッと 笑う		テディ、マアサ「（笑い）ハハハ……」
274	ベッキーも笑う		ベッキー「フフフ……（笑い）……」
275	赤ん坊もゴキゲンに手をパタパタ		母「嬉しいよ……お前がそんなに立派に

No.	画面		音・台詞
	タやっている と目を押える母		なってくれたなんて…有難うベッキー」
276	エントツから煙　Longに教 会（夜）		S・E（カーン、カーン、カーン） ～
278	手を組んでお祈り　子供たちは 黙禱のかんじ　テーブルの上 スープ、ポテトと野菜サラダに パン　お祈り終ってばあちゃん スープを口に		
279	ばあちゃんスープをのんでベッ キーにニッコリうなずく「おい しいよ！……」		
280	ベッキー嬉しそうに　目線を前 に		
281	母もスープをのんでニッコリと 頷く		
282	ベッキー、ニッコリ　脇の二人		ベッキー「フフッ。

	のんでいる　ベッキー、スープをスプーンにとってフーフーとさまして赤ん坊に マアサ、ベッキーにスープをのませる　今度はテディがパンを…		フ——ッ！」
283	ニコニコ見るおばあちゃんと母 母おもわず涙ぐむ		
284	明るい一同　子供たち笑い合っている		子供達　「フフフフ」
285	（夜）台所　ジェームス大きな欠伸をするとテーブルに肱をつき足を組む		ジェームス「ああ—— 今夜から久し振りに早寝が出来るってもんだぜ」 モーリー「そうはいかないよまた院長先生の夜食作りが、あるからね」
286	ジェームス渋い顔　セーラがお盆を手に持って来る		
287	セーラ、テーブルのところに来		モーリー「おや、終ったのかい院長先生の夕食？」

	て盆を置く	セーラ「はい、モーリーさん。……夜食も、今夜はいらないそうです」
288	ジェームス身体起こし立ち上る	ジェームス「有難え……ようし」
289	ジェームスすぐFr・Iして手前を通過　モーリーも立ち上ってセーラの後を右手に	ジェームス「あとの洗い物はキチンと片附けとけよ」 セーラ「はい、ジェームスさん」
290	セーラ見送って小さく吐息　気をとり直したように振りかえり	セーラ「フ――ッ」
291	機敏に……テーブルに廻って来て　モーリー達の皿を片付け始めるセーラ	
292	洗い桶に入った皿　そこに水桶から水が流されて	

293	皿を洗うセーラ		
294	洗うセーラ		
295	セーラ皿を手に持ってFr・inする しゃがんで皿をしまうとFr・outする↙ また入って背伸びして器をしまうと戻る		
296	セーラ洗い桶を逆に返して エプロンで手をふき ほっと汗をぬぐう		セーラ　「フ――ッ！」
297	暗い屋根裏　部屋の窓　ポッと明るくなる		
298	セーラ、机にロウソク置いて ベッドに腰かける		
299	ベッドに手をついて顔をエミリーに…… セーラ、エミリーを抱き上げる		セーラ　「エミリー……今夜からこの屋根裏部屋は、本当にあなたと二人きりになってしまったのよ。

カット	内容	秒	セリフ
			お隣りのベッキーはお里帰りしたし、ロッティやアーメンガードも暫くこの部屋を」
300	エミリーUP		セーラ(off)「訪ねてくれる事はないのよ……」
301	セーラ、エミリーに言い聞かす		セーラ「淋しいけど我慢しましょうね」
302	顔上げるセーラ		S・E（キキキッ・メルたちの啼き声）～
303	メルたち抗議するように啼いている		
304	セーラ、ニッコリする		セーラ「まァ、あなたたちがいる事を忘れてるって怒っているのね」
305	そうだそうだというようにメルたち啼く		
306	セーラ立ち上って机の上から（パン屑）を摑み上げる ◎メル達に近づいて		

307	しゃがみ込みパン屑を床にまく メルたちパン屑に近よる	セーラ　「有難うメル」
308	見るセーラ	セーラ　「帰る故郷も温かく迎えてくれる肉親 もない私……
309	メル、セーラに向って首を伸し て啼く	そんな私をなぐさめてくれたのは、
310	セーラ、メル達を見つめている T・U F・O	メルの家族だったのです」

＜ E N D ＞